

今年オリンピックの熱戦の報道が多かったせいか、各地の記録的猛暑のニュースが少なかったような気がします。しかし、気候変動の影響もあり世界的にも各地で豪雨災害が起きています。日本でも台風のシーズンになり局地的豪雨災害が増える心配と、いつ起こるかわからない大地震の心配が常にあります。

W.Coは、拠点で事業を行っているところがある一方、拠点はあるもののメンバーは主に外で働いている場合や、拠点を持たずに事業をしているW.Coもあり多種多様です。そのため、各W.Coの防災に対する取り組み方も必然的に違ってきます。今回、部門別にアンケートをお願いし、特徴的な2つの部門の具体例を紹介します。ぜひ参考にして、この機会に自分たちのW.Coの防災について見直してみませんか。お忙しい中、ご協力いただいたW.Coの皆様、お礼申し上げます。

(うえい編集長 小林麻利子)

「9月は防災月間」
...ということ

聞いてみました!!

防災の取り組みについて

取り組み(アンケートより)

生協まちづくり部門

生活クラブ委託のところは、生活クラブのルールに準拠しているところが多いです。配送を行っているところは、車に必要なもの(ヘルメット・水・連絡先ボードなど)を備え、『171』の活用方法を各ブランチで周知しているようです。店舗が拠点になっているところは、地震・火災を想定した訓練を行っています。

居宅介護部門

居宅のみの事業のW.Coメンバーは近隣に住んでいるので、備蓄などはしておらず、緊急連絡網のみ整備しているようです。

食部門

避難訓練は、事業を受託しているところは、委託元が行う場合に参加しています。備蓄も、食材の在庫があるので、それが備蓄にもなっています。

住まい型生活支援部門

大地震によって起きた火災を想定し、消防署の署員と一緒に消火訓練などを行っているところ、施設の緊急連絡網訓練にのみ参加しているところなど、W.Coの業種によって違いがありました。

移動部門

事業の特徴上、備蓄を行っているところは少ないですが、利用者に乗せている時に大地震が起きた場合の行動マニュアルの整備を行っているW.Coもありました。

家事介護・生活部門アンケート

- ① メンバーが、ケア中・会議や講座等のワーク中や移動時に災害が起きた場合、行動のマニュアルを整備していますか?
- ② 災害伝言ダイヤルを活用していますか?
- ③ メンバーの避難訓練は行っていますか?

家事介護部門

アンケート提出
10回1本 / 25回1本中

- ① している 9 / していない 1
- ② 周知はしているが使ったことはない 3

生活文化部門

アンケート提出
8回1本 / 13回1本中

- ① していない 8
- ② していない 8
- ③ している 3

デイサービス・保育部門アンケート

- ① 東日本大震災などを受けて、防災に関して整備を強めましたか?
- ② 年間に1回以上は、メンバーなどの避難訓練などを実施していますか?
- ③ 事務所に何らかの備蓄をしていますか?
- ④ 利用者の送迎時やデイで、大地震が起きたときなどの行動のマニュアルを整備していますか?
- ⑤ その他独自に取り組んでいることがありましたら教えてください。

デイサービス部門

W.Coメロディーの場合

私たちはW.Co独自のサービスと共に、生活クラブ神奈川の事業である「生活リハビリクラブ幸」のデイサービス・訪問介護・居宅介護支援事業を運営しています。毎年「危機管理マニュアル」を基に避難訓練を行い、マニュアルの学習や点検を行っていましたが、東日本大震災を契機に大きく見直し、備品や備蓄の管理も徹底してきました。

最近では特に災害も多く水害も多発していることから、川崎市と学習会を開催し「災害時要援護者施設(医療施設等を除く)用洪水時の避難確保計画」を策定しました。また、2021年度から介護保険制度の

改定があり、感染症や災害への対応力強化が求められ、4月には、「非常災害対策計画」を策定しました。施設の立地条件災害に関する情報の入手方法、災害時の連絡先および通信手段の確認、職員の連絡先、緊急連絡網、利用者(家族)情報、避難経路、避難方法、役割分担、関係機関との連携体制、食料・防災資機材の備蓄を整備しています。そして、項目ごとのチェックシートを活用しながら情報の共有を常に行い、指揮系統体制を明確にして瞬時に冷静な判断をしながら、混乱なく避難するための訓練を行っています。

(メロディー副理事長 木村満里子)

アンケート提出
7回1本 / 17回1本中

- ① はい・4
- ② はい・5
- ③ はい・5
- ④ はい・3 / いいえ・2
- ⑤ コロナ禍の前は、自治会の防災訓練等に積極的に参加し、地域の方と連携をとるようにしていた

保育部門

W.Coゴジマの場合

横須賀市の2か所(小学校の余裕教室と民間の店舗(6階建ての複合ビルの2階))で学童保育事業を行っています。それぞれ45名と36名の小学生を預かっていますが、場所の違いによって避難訓練にも違いが出ます。私が関わっている民間の店舗は大地震で津波警報が出た場合、少し離れた高台に逃げる必要があり、もし停電になって信号がストップしたときに、低学年の子どもたちを連れて交通量の多い大きな道路を無事に渡り切れるかどうか心配でした。今年になって大家さんのご厚意で、建物に被害がない場合は屋上に避難できることになりました。屋上で長い時間過ごすことになった時に備え、簡易トイレの設置場所などを確認しています。

子どもたちと一緒に避難訓練は、火災、地震、不審者と想定を変えて年に4回行っています。その他に、指導員の研修として毎年救命救急講習を実施し、心肺蘇生の方法やAEDの使い方を学んでいます。

年に2回の災害伝言ダイヤル(171)の無料体験期間中に、さまざまな災害を想定して被害の状況や避難場所などの録音練習を行い、保護者にも再生して確認してもらっています。録音は決められた時間内にわかりやすく、明確に伝えなければならないので、いざという時に誰もができるようにメンバー全員で体験しています。ない方がいい本番ですが、少しでも焦らずにできるように練習あるのみです。

(ゴジマ副代表 小林麻利子)

アンケート提出
5回1本 / 10回1本中

- ① はい・7
- ② はい・6
- ③ はい・7
- ④ はい・6 / 作成中・1
- ⑤ 災害伝言ダイヤル体験期間に録音練習と保護者に再生練習をしてもらっている。防災食を手作り昼食のメニューしている。

使ってみる?

Yahooの「防災タイムライン(「Yahoo!防災速報」の新機能)」

無料で利用できます。住所や世帯構成などを事前に登録しておけば避難所へ向かう必要があるタイミングでプッシュ通知が届き、災害時の逃げ遅れを防ぎます。また同居人数や性別、年代などを登録することで、必要な備蓄品のリストを確認できる機能も。緊急時に必要な連絡先の登録もできます。